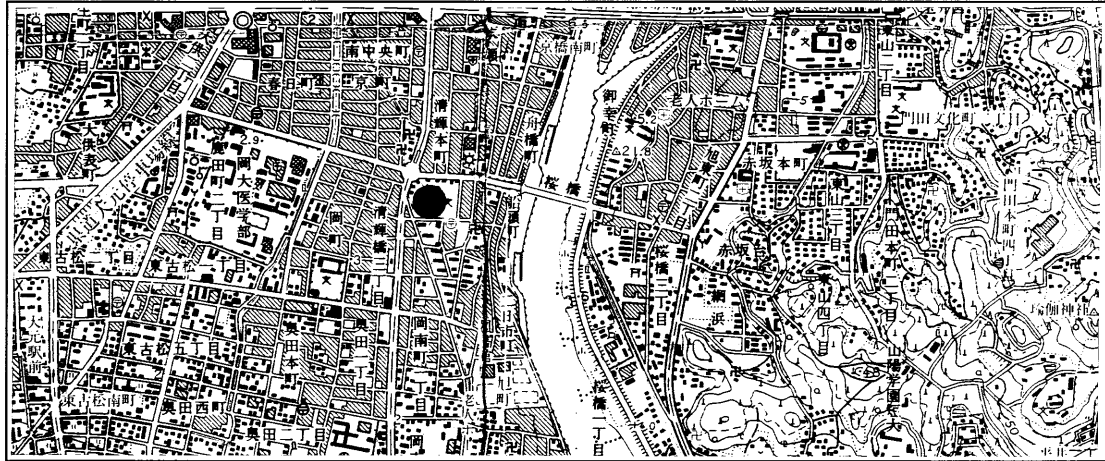


新道遺跡

草原孝典

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

岡山市北区新道に所在する遺跡です。岡山市立清輝小学校のプール新築工事に伴って発掘調査されました。新道遺跡は、近世以前までは旭川の河口付近に位置し、殿下渡領の1つである「鹿田庄」の一部に含まれると推測されていました。発掘調査の結果、上層には岡山城下町の一部が検出され、居住者の名字を文様とした軒丸瓦が出土しました。城下町の地割は、空襲と戦後の都市開発で改変されてしまっていますが、今回の調査で、城下町絵図の位置を現在の地点に照合する定点の1つが得られたといえます。

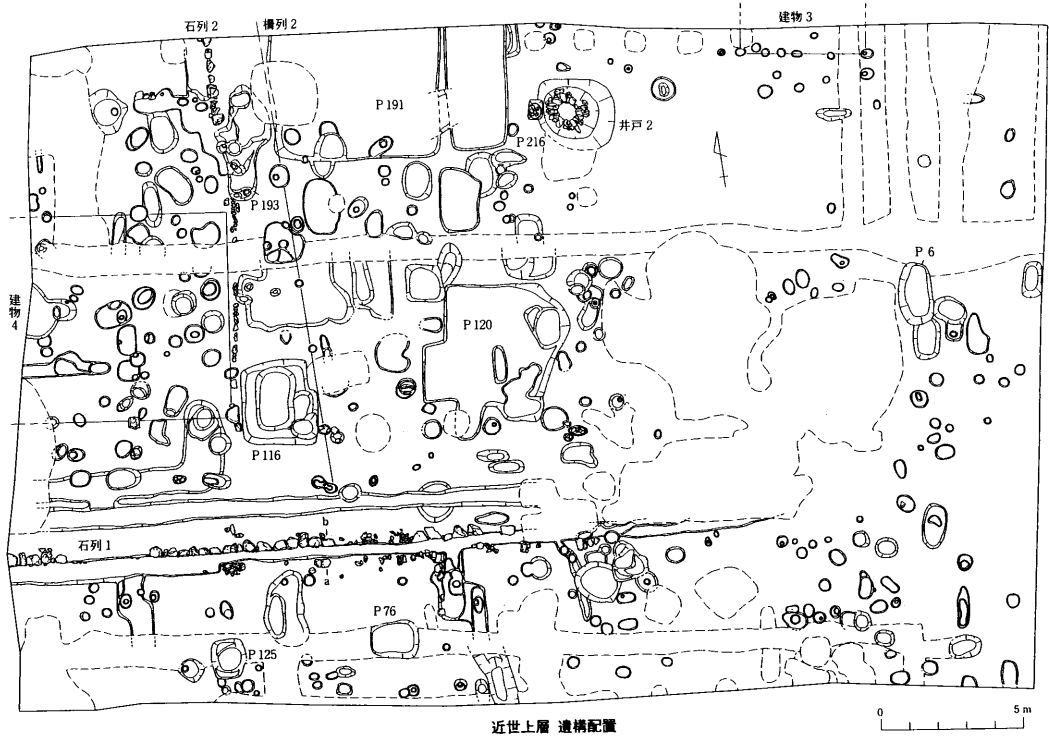
下層からは、中世前期の建物と井戸が出土しました。井戸からは多数の遺物とともに木簡が出土し、そこに「〇〇御庄久延弁」と墨書されていました。荘園の年貢を納入したときに付けられた荷札と考えられます。この木簡が出土したことで、出土した井戸の規模が大きく、また、周囲の建物も井戸の方向性に合わせている規則性が認められることから、鹿田庄の中心である荘所が付近に存在していた可能性が推測されます。鹿田庄が描かれた「荒野庄絵図」では、旭川に沿って在家が並んでおり、絵図の描かれた中世前期には旭川の水運が極めて重要であったことがうかがわれます。おそらく、そういった理由から、旭川に近接する新道遺跡に荘園の中心が設定されたのではないのでしょうか。

【文献】

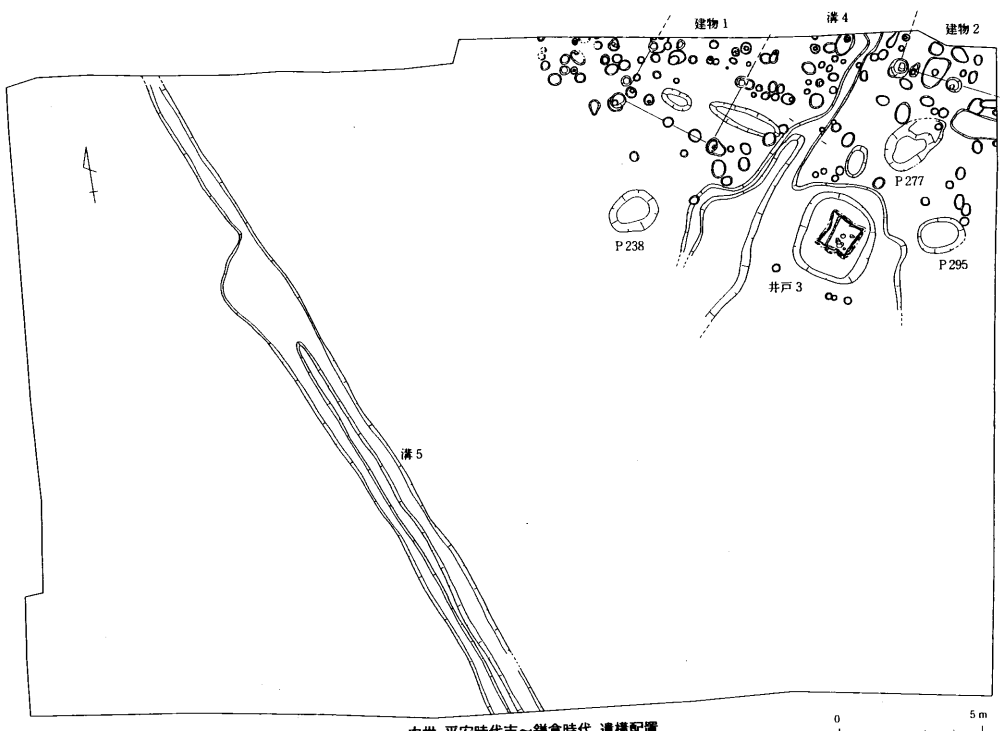
草原孝典 2002年『新道遺跡』岡山市教育委員会

【交通】

路面電車「清輝橋下車」徒歩3分



近世上層 遺構配置



中世 平安時代末~鎌倉時代 遺構配置

図1 遺構配置図